



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／竹村 一幸
- 副会長／小野 仁 中畑 隆一
- 幹事／小口 泰史
- 会報・雑誌・広報委員長／坂井 忠彦

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939 ・ URL: <http://okayarc.org> ・ E-mail: okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2332 回例会 2007 年（平成 19 年）3 月 20 日（火）

司 会：山岡正邦 ラッキーNo.：No. 18 藤森睦美
点 鐘：小野 仁
斉 唱：それこそロータリー
誕生 祝：小口哲男、北村正春、畑博明



誕生祝

会長挨拶 小野 仁 副会長

本日は竹村会長が休みですので代わりに務めさせていただきます。
三月は別れの月です。職場・役所・学生等々長年共にしていた人々と離れる機会が多い月です。そして四月は新しい仲間との希望に燃えたスタートの月です。

別れの究極は死別です。仏教の教えでは、まだ仏になれない者を人間社会に降ろして、厳しい修行をさせます。そしてその修行が終わると仏の世界に戻して仏になり永久の幸せをいただけるそうです。しかしそれを受け入れるには現実では難しい事です。自分の修行が終わった時に初めて分かる事かもしれません。

お彼岸ですのでそれにちなんだ話で会長の代理としての挨拶といたします。

幹事報告

- ・ 第 2600 地区規約改正案が横田ガバナーより出され、3 月 16 日のクラブ会長による代表者会議にて記名投票を行い規約案が決定しました。後日、正規な規約が届くと思います。
- ・ 諏訪グループ I M 第 2 部が 4 月 15 日（日）諏訪湖ヨットハーバー集合・受付開始午前 6 時 30 分、開式 7 時、清掃開始 7 時 30 分に行われます。清掃の出来る服装で集合して下さい。多くの皆様のご協力をお願いします。



卓話 「私と野球」

諏訪清陵高等学校
野球部監督
小笠原 健一 様

高校野球の指導者となり 35 年、保護者の前では少しは話せますが、この様な場でお話をさせて頂くのは本当に恐縮しております。

昭和 22 年生まれで団塊の世代です。我々の少年時代は一般的に家庭の親は働くの

みと言う時代でした。子供は遊ぶ事が中心でした。その時に一番やったのが野球です。バットも今みたいに良い物ではなく、ボールもきれまりで5円だったと思いますが、新しく買った時にはとても嬉しかった事を覚えています。きれですから使っていくうちにすぐに柔らかくなってしまいます。グローブも靴も無く素手や裸足でやりました。校庭はもちろん境内や田んぼ、やれるスペースがあればどこでもやりました。人数もいる数に合せ三角ベースに変えたり、ルールも変えたりと自分達の知恵を出し遊びました。

休みには山や川へ行き遊び、そんな遊びの中で大きな声を出し、走り回り体力が出来、年上が年下の面倒を見るなどして社会性を身に付けたと思います。今、野球で声を出せと言っていますが、今はあまり声を出す事が無く苦痛のようです。昔は山や川などで自分の場所の確認というのもあり声を出しました。

帰りにはさようならとは言わず、我々の時はアバとかアバヨとか言っていました。おばあさんなんかには会えばちゃんとおはようございます、こんにちはと言えました。挨拶しろと教わらなくても出来ました。今は挨拶が出来ない状況です。遊びの中で声を出す。これが挨拶にもつながっていったのではないかと思います。

そして、身体が丈夫になります。裸足で飛びまわる、遊びまわる事によって身体を動かし、自然と身体を作っていく。身長も体重も今の子供たちのほうが大きいと思いますが、身体に実が入っていないと言うかしっかりしていません。

今の学校の勉強は詰め込み主義で受験用です。正確な答えを早く出すという事に価値観を得て、スピードを求めて来ました。スピードを求めてもゆとりは出来ませんでした。より忙しくなったのが現実です。何の為にスピードを求めたか疑問です。

学校の勉強も真理の探究や創造性の喜びを感じるなど本来はそうした事だと思います。彼達に自分達で考えて行動をとってほしいと思い野球の中では指導しているつもりですが、どうしても知識優先になっています。生きていく為には知識ではなく知恵、知恵が無ければ生きていけないのではないかと私は思っています。

私も野球小僧の中の一人でした。小学生での夢はプロ野球選手。中学生では実力も分かりプロではなく甲子園に憧れていきました。今の時代は少年野球から始まり高校で野球留学と言い野球の名門校へ行き、甲子園で優勝、将来は大リーガーへと言う様になって来ています。私の当時は地元の高校へ進み甲子園を目指しました。

私は高校で甲子園を目指しましたが、初戦敗退。しかしどうしても甲子園に行きたいという気持ちが強く、生徒と共に甲子園を目指したいと指導者になり35年間まだ目標に達しておりません。生徒に恵まれ長野県大会決勝に7回出させて頂きましたが、もう一步というところまで来ていても選抜に選ばれません。目標の達成は難しい事だと思います。企業の場合は目標は達成しなければなりません。学生野球の場合はあくまで教育の現場、修練の場と言う事で、目標の達成に向かったの過

程が肝心であると思っています。目標と目的を明確にしてやっています。これは多分指導者の殆どがそうであると思っています。夫々の選手個人も目標に向かっていきます。

目的と言えば教員でありますので教育であると言う事、この事はしっかり持っていなければいけないと思っています。人間の基礎、基本を身に付ける、人間性を磨くと言う事にポイントを置いて指導をしています。

その目的を私は4つ程掲げております。野球で良い事は厳しいトレーニングをする事により健康な身体作ると同時に健康な精神が出来る事だと思えます。精神的にも肉体的にも我慢が出来ると思えます。そして感謝や思いやりの気持ちを持って欲しい。自分ひとりでは野球は出来ない、イコール自分ひとりでは生きられないと言う事です。また、平和であり野球が出来る事にも感謝して欲しいです。そして、一番練習で厳しくしている事はカバーするという事です。エラーのカバー、チームメイトのカバー、助け合いです。

今、嘆かわしい事件が日常茶飯事起こっております。感謝と思いやりが無くなったせいだと思います。民主主義を履き違え、自由が自分勝手になり、全てが平等であると思っていますのでしょうか。私は親も子と、指導者も生徒と平等では無い事をはっきりさせています。親に養ってもらっている事に、指導者に指導を受けている事に感謝をする事を、生徒達は自然に身に付けてくれていると思えます。

レギュラーになれなくても一生懸命やれば、一つの事を真剣にやり通した時はそれなりに満足感がある。人生も同じであると思っています。そして、クラブをやって良かった事は、一生の仲間が出来ると言う事です。苦しい事を味わった仲間、仲間はお金では買えません。青春において得たものこそ終生の宝であると生徒達によく言います。人生の大切な時期に一つの事をやり遂げる事は大事だと思います。

今年、還暦を迎え前半戦の終了の時期に来ましたが、生徒達と一緒に情熱を持って甲子園出場という目標に向かって頑張ってきた事を幸せに思っております。ある人の言葉ですが、若さを不完全燃焼した者はその燃えカスを一生くすぶらせて生きていく。私もその様に思います。ありがとうございました。

出席報告

会員数50名、出席者33名、出席率66.00%、前々回訂正88.00%

2006-2007年度 RI テーマ
率先しよう
LEAD THE WAY

